

東日本大震災で  
被災者に給水

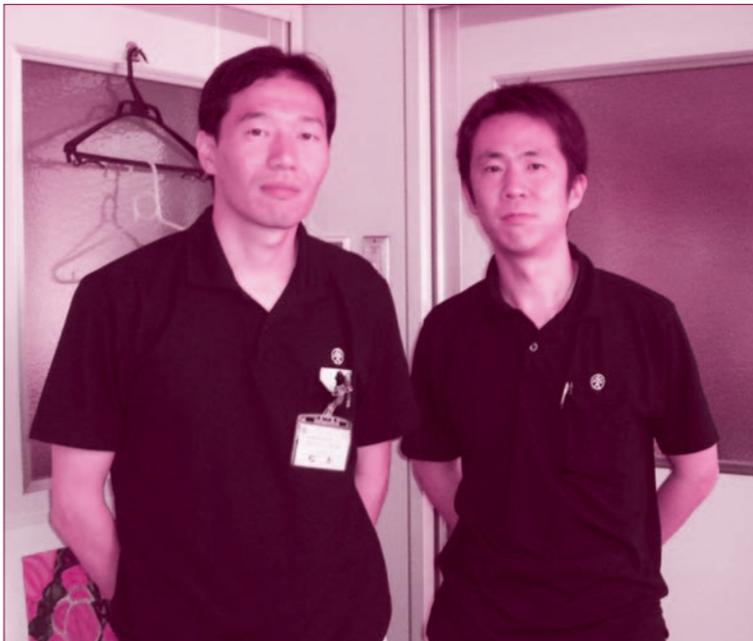
# 水道職員として、 被災地で活動できたことを 誇りに思います

松村 諭さん

吹田市水道労働組合執行委員

松本 晃一さん

吹田市水道労働組合副委員長



「すぐにも被災地に戻って、多くの人を支援したい。今はその気持ちが強いです」と語る松村さん（写真右）と松本さん（写真左）

## 家族のように 接してくれた被災者

東日本大震災の被災地へ、吹田市水道部の職員として給水活動に参加しました。

「被災された方の力になりたい、と思っただけでしたが、逆に私たちが励まされました」と松村さんは言います。大阪から給水車に乗車し、寝る場所も食事の手配も決まらないうまま、丸一日かけて岩手県大船渡市へ到着。「給水所へ足を運ぶのは年配の人が多く、ケガをされた人もいました。私たちが『手伝いますよ』と声をかけると、感謝をされて家族のように接してくれました」。職員の寝る場所も、自治会長をはじめ被災者が自宅を提供してくれました。「被災された方はとても謙虚

で、こちらが恐縮するほどでした。給水でもらった水でコーヒーを沸かして差入れてくれたり、雨が降ってきたら大きなパラソルをさしてくれたり、「わざわざ大阪から来てくれて…」と涙を流して喜んでくれる人もいました。住民に水を提供して、こんなに感謝をされたのは初めてです。水道は本当に大切なんだ、と感じました」と松本さんは語ります。

## 住民のために 責任のもてる職場を

「水道職員として被災地で活動できたことを誇りに思います」と語る松村さん。この経験は、自分の仕事を見つめ直す機会にもなりました。被災地には全国各地の自治体から水道職員が救援に駆けつけ「自治体労働



岩手県大船渡市での給水活動の様子。右端にいるのが松村さん

者としての連帯を感じた」と言います。職場では人員が減らされ、正規職員が非正規に置き換えられています。被災地に職員を派遣できたのも、職場の仲間の支えがあったからこそ。「吹田市も人員が減って、職場に余裕がなくなってきたので、災害があっても、きつちりと動ける職場にしなければ」と松村さん。「住民のために責任をもって仕事をするために、組合としても人員補充の要求をにかけていきたい」と松本さんは決意を語ります。



いっぱい  
交流して  
楽しかったよ！

# Welcome 大阪自治労連の新しい仲間たち！

## 青年部新採歓迎会

150人が参加して

交流・ゲームに

大盛り上がり

大阪自治労連青年部が、新入職員歓迎会～Welcome Party～を6月11日に大阪市内で開催しました。歓迎会にはこの春に入職した府下各自治体の新入職員や、青年部役員150人が参加。各単組からの自己紹介パブオープンズ、ビンゴゲーム、交流会などで大いに盛り上がりました。



おおさか  
自治体の仲間

発行：大阪自治労連(大阪自治体労働組合総連合)

2011年6月15日 No.269

〒530-0041 大阪市北区天神橋1-13-15大阪2101  
会館4F ☎06-6354-7201 FAX06-6354-7206  
E-mail:mado@osaka-ichiroren.jp  
URL:http://www.osaka-ichiroren.jp

発行人/前田 仁美 編集人/久保 寛裕  
毎月15日発行(1部10円) 組合員の購読料は組合費に含まれています。